

平成19年度 校内研究のまとめ

学校名(備前市立日生東小学校)

校長名(中 司 芳 江)

1 研究テーマ 一人一人が確かな学力を身につけ、共に学び合う児童の育成
～ 分かる算数科の授業の工夫・実践を通して ～

2 研究テーマ設定の理由

本校は、平成18年度 一人一人が確かな学力を身につけ、生き生きと活動する児童の育成 ～ 分かる授業の工夫・実践を通して ～ をテーマに取り組んできた。

事前テストで、児童の実態を把握し、個別に支援の必要な児童への関わり方を工夫したり、朝のチャレンジタイムや家庭学習の継続的な実践により、自主的な学びのものになる基礎的な学習の定着に努めたりした。その結果、課題に向かって主体的に取り組み、自力解決する喜びを味わうことのできる児童の姿が見られるようになってきた。しかし、自分の考えをもつことはできても、それを分かりやすく説明したり、自分や友達の様々な考えから、話し合っ互いの考えを認め、算数的価値の高い考えに迫ったりする力は十分とはいえない。

そこで、本年度は、昨年度の研究の成果を土台にして、互いの考えを認め合い、高め合うことのできる工夫と支援の仕方について、さらに研究を深め、合わせて授業で勝負支援事業に取り組んでいきたいと考え、本研究テーマを設定した。

3 研究内容および成果

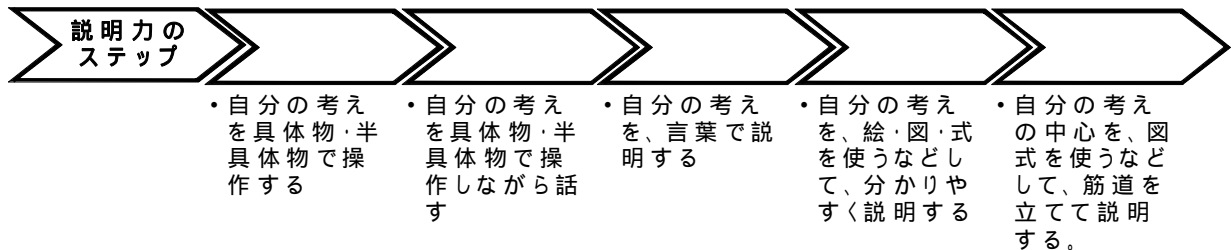
(1) 研究方法

- ・月曜日の放課後を校内研究研修日とし、全体会や各部会研修を行う。
- ・研究会へ積極的に参加し、研究校のよさを全職員に広げる。
- ・年間一人2回授業研究を行い、授業力を全職員が高める。
- ・積極的に外部講師を招き、授業について指導助言を得て授業改善に役立てる。

(2) 研究内容

めざす子ども像

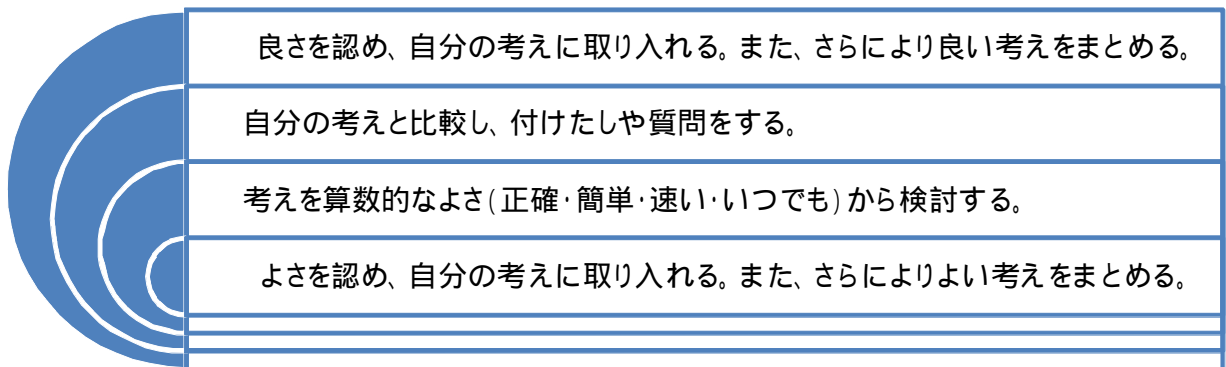
話し合う活動を通してよりよい考えに気づく子供



研究

授業コミュニケーション力のステップ

授業を通しての



実践研究

5月29日

第3学年

「新しい計算を考えよう(わり算)」

第6学年

「平均とその利用」

- 指導者 岡山大学 准教授 黒崎東洋郎先生
 6月21日 第2学年 「1000までの数」
 7月3日 第1学年 「ひきざん(1)」
 指導者 岡山大学附属小学校 鈴木隆幸先生
 7月9日 第5学年 「三角形・四角形の角」
 7月31日 第1回公開研究会
 「算数科の授業はこれだ！」 岡山大学 准教授 黒崎東洋郎先生
 児童が主体的に学ぶ算数科の授業づくりの基礎基本についての研修
 9月28日 第6学年 「変わり方のきまりをみつけて」
 10月26日 第2回公開研究会
 第5学年 「面積(三角形)」
 指導者 甲南女子大学 教授 船越俊介先生
 12月4日 第4学年 「もとの数はいくつ」
 12月12日 第1学年 「0のたしざんとひきざん」
 1月30日 第3学年 「べつべつに いっしょに」
 2月14日 第3回公開研究会
 第2学年 「10000までの数」
 第4学年 「変わり方」
 指導者 岡山大学 准教授 黒崎東洋郎先生

(3) 研究の成果

一人一人が確かな学力を身につけるために

- ・単元の系統から考えた事前テストにより、児童一人一人の実態を把握することで、朝のチャレンジタイム等を利用し、既習事項の復習や個別の支援を行うことができた。そのため、単元の学習に入る際には、既習事項の理解度の差が少なくなり、課題への取りかかりがスムーズになった。
- ・学習内容によって、「教え込む授業」と「考えさせる授業」を区別して単元構成をすることにより、教師が単元のねらいを明確にし焦点を捉えた指導ができた。
- ・学習過程「つかむ」「自分の考えをもつ」「くらべる」「まとめる」を設定することにより学習の仕方や進め方が少しずつ身につく、授業に意欲的に取り組もうとする姿が見られた。また、学習過程を意識した板書をするにより、既習事項を用いて解決の見通しをもとうとする児童が増えてきた。
- ・自力解決では、多様な考えをもつことができるように、具体物・半具体物の操作や動作化、シートの活用等を取り入れた。そのため、課題や場面理解がはっきりし、絵や図での表現やつながったり、筋道を考えて考えたりする一助となった。
- ・まとめの時間を確保し、まず、板書や教師の与えた視点をもとに「自分まとめ」をすることで学習を振り返り、次に友達のまとめを聞き、「全員まとめ」をすることで、学習のポイントを整理することができた。
- ・年間2回の授業研究は、一年間を通して研究テーマを常に意識して授業に臨むことができ、児童や教師自らの成長の様子を追うことができた。

共に学び合うために

- ・授業コミュニケーション力を身につける基盤として、「話す・聞くのあいいうえお」を教室に掲示し指導することで、支持的雰囲気が増えてきた。
- ・比較検討の際、ネームカードや拳手等で自分の考えを明らかにすることにより、友達の考えを自分の考えと比べながら聞いたり、ハンドサインで表したりすることができるようになった。また、同じ考えの児童で協力し合ったり、補足し合ったりしながら、分かりやすい説明ができてきた。
- ・机間指導により指名計画を行ったり、意見のずれを起こさせたりすることにより、友達のよさに気づきながら算数的価値を意識して話し合うことができるようになってきた。

4 今後の課題

- ・全員参加の共に学び高め合う授業をめざして、第1学年から第6学年までのそれぞれの系統性をふまえた教材研究、発問や支援の仕方の工夫をさらに深めていきたい。
- ・比較・検討の際、自分の考えを説明する力や算数的価値を意識しての話し合う力は育ってきているが、友達の考えを認め自分の考えに取り入れれたり、更によりよい考えをまとめたりする授業コミュニケーション力はまだ乏しく、話し合いの深まりが今一つである。話し合う活動を通してよりよい考えにきづく子供をめざしてさらに研修を進めていきたい。